

5. 市民性の涵養をめぐる専門教育と教養教育との関わり

家政学からは、生活を客観的かつ体系的に捉え、時代や社会の変化に伴い変化する生活実態を総合的に把握しつつ、他者と協働しながら生活の質の高い生活を選択・実践していくことができる能力を学ぶ。また、家政学では衣食住を中心とした知識と技能を修得し、学習した内容を日常生活や社会生活の中で実践することで体験と通しての効果や反応から学習した内容の社会的、公共的意義について認識することができる。市民教育を目標とする教養教育の学習形態として参加型学習の重要性が言われているが、家政学においてはこのように実践型の内容を含んでいる。

家政学が研究及び教育の対象としているのは生活であり、その生活をとる環境は、人間が生活することの自然環境と人間がつくる社会から成り立っていることから、家政学の研究・教育の視点は、自然科学的と社会科学の統一となる。すなわち文系と理系という分断ではなく、文系と理系を共有するものであり、社会変化を理解しつつ、生活の質の向上を目指すためには経済学、経営学、農学、社会学、法学、心理学、医学、教育学、体育、区御学、歴史学、人類学、民族学などの多分野から基礎知識を学ぶことになる。家政学はこれら多種多様な学問分野と連携し、生活を正確に分析し、課題を解決できる知識を学ぶ。

家政学は自分の生活の分析や課題発見・解決のために、文化的背景、価値観、立場などが異なる人達と討議をしたり、一緒に活動を行う。これによりコミュニケーション能力を養うこともできる。

これら家政学の専門性から、家政学は教養教育の学習目標である現代社会が直面している課題を学際的な視点で考え、多様な価値観をもつ他者とのコミュニケーションを図りつつ、協働する能力を培っていくことができることから、大学における教養教育として重要な分野のひとつである。

以上より家政学が専門分野として設置されていない大学においては市民性の涵養、生活基盤を大学生生活において考える機会として大学の教養教育のひとつとして家政学を導入することは意義があると考えられる。